

見を取り入れて、委員会名の表記を一部改変した。卒前教育での行動科学の学習が、卒後に医師となった者の成長にとって欠かせぬものとなるように、その内容・方法の吟味を進めている。

副委員長：星野晋，竹腰進，委員：大貫優子，榎田美雄，道信良子，市川家國，溝口満子，河本慶子，川上ちひろ

7. 医学教育専門家制度委員会

平出 敦（委員長・近畿大学医学部附属病院）

医学教育専門家の養成と、その認定は、わが国においては、整備が遅れている部分であり、学会としても緊急性の高い課題である。

日本医学教育学会では、第15期にマスターコース検討委員会（委員長：鈴木康之）を立ち上げ、第16期には、医学教育専門家育成委員会（委員長：藤崎和彦）で、医学教育専門家の養成に関して学会員とともに、検討を重ねてきた。また、大会等を通じて単なる外形的な制度ではなく、専門家としての内容の実質が伴う必要性が繰り返し認識されていきている。第17期には、医学教育専門家制度委員会の名称で、本学会の事業として制度設計し、制度を運用することを目指している。また、それだけではなく、一部のエキスパートだけが内容を構築するのではなく、広く学会員に基盤となる情報を発することも委員会のミッションとしている。

そのため、学会誌に医学教育専門家に求められる内容をシリーズで連載するとともに、大会においては関心のある会員に説明会を実施して、双方向的な議論を行うなどのことを進めている。なお、医学教育専門家に求められる内容に関しては、教育実績やワークショップ参加実績等に加えて、コースワークシリーズの修了、「認定用教育ポートフォリオ」の構築が挙げられている。この認定システムの制度設計、コースワークのトライアル、そのレポートや評価システムの構築等は、通常の委員会組織だけでは実施は困難であり、15期、16期の委員やエキスパートの協力を得て、拡大ワーキンググループ（別項）を編成して実務を推進している。

副委員長：藤崎和彦，委員：大西弘高，菊川誠，鈴木康之，高村昭輝，錦織宏，渡邊洋子

8. 医学教育専門家制度WG

平出 敦（全体統括・近畿大学医学部附属病院）

医学教育学会医学教育専門家制度ワーキンググループでは、2014年の日本医学教育学会大会で学会認定医学教育専門家制度をスタートさせるこ

とを目指して、準備作業を進めている。

ワーキンググループとして、制度設計班，コースワーク班，ポートフォリオ班，アドバイザー